

英語 授業づくり講座 ～南国市立香南中学校～

「高知県の魅力を世界に発信するために

オンラインツアーを作ろう」



発行
令和3年3月23日
中部教育事務所



単元 第2学年 PROGRAM 6 Live Life in True Harmony (開隆堂)

領域別目標

「話すこと [発表]」

イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。

CAN-DO リスト形式での学習到達目標

「話すこと [発表]」

イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。(8文程度)

単元目標

より多くの外国人観光客に訪れてもらうために、高知県の魅力について、客観的な事実や情報をもとにして、自分の考えや気持ちを整理し、簡単な語句や文を用いて話すことができる。

単元計画 (全7時間 本時6時間目)

時	主な言語活動
1	高知県の観光業の現状について自分の意見を話す
2	香南中学校についてマッピングをもとに話す
3	南国市または高知県の有名人についてマッピングをもとに話す
4	南国市または高知県の生産物についてマッピングをもとに話す
5	南国市または高知県の建造物についてマッピングをもとに話す
6	高知県のおすすめの場所やものについてオンラインツアーの形式で話す
7	高知県のおすすめのお土産についてマッピングをもとに話す
PT	高知県のおすすめのお土産についてマッピングをもとに話す

本時の展開

	活動内容
1 Review	前時に生徒が書いた writing や振り返りから参考にさせたいものをまとめたワークシートを配付し、これまでの学習を振り返る
2 Speaking 1	事前課題として作成した mapping をもとに、高知県のおすすめの場所やものについて紹介し合う
中間評価 1	全体共有→再構築
3 Speaking 2	一人一台端末を用いて写真等を見せながら、ペアで伝え合う
中間評価 2	全体共有→再構築
4 Speaking 3	内容をさらに膨らませ、一人一台端末を用いてペアで伝え合う
中間評価 3	全体共有→再構築
5 Writing	発話内容を再構築したものを整理して書く
6 Reflection	振り返りを書く



授業者 小谷 優太 教諭

トピックを変えながら言語活動を繰り返す、資質・能力を育成する

「見方・考え方」を働かせている生徒の姿

- 自分の考えなどを入れて具体的に紹介すると、相手に伝わりやすいな。
- 聞き手に問いかけたり、間をとったりすると興味を引き付けられるな。
- 聞き取りやすいように伝えたり、強調したりすると魅力が伝わるな。
- 順序や展開を意識することで、相手により伝わりやすくなるな。



仲間の表現から学び合わせる

毎時間、生徒の良い表現や振り返りの記述をワークシートにまとめて共有し、価値付けすることで、お互いの良さに気付かせ、表現の参考にさせている。



教材研究会

令和3年8月25日オンライン開催

【協議の視点】

「見方・考え方」を働かせられる単元計画となっているか。

【参加者より】

- ◇目的・場面・状況を明確にするために、発信相手を具体的に設定することで、さらに相手意識を持たせられるのではないか。
- ◇生徒同士で活動する際に、効果的なフィードバックができるように聞き手を育てることで、表現の高まりを促せるのではないか。



授業研究会

令和3年11月4日開催



授業づくりのポイント ～山田誠志教科調査官より～

めあてに沿って内容面を深めさせる

自分の発話が目的や場面、状況に応じたものになっているか確認するために、外国人観光客がターゲットならその本人に聞くのがベストだが、代わりに外国人であるALTに聞くことで、より本物に近付くことができる。本時なら、ALTが「お土産は何が買えるか」と質問した時に、板書に残して、各自にその視点があるか確かめさせることもできた。

思考させたいポイントをキーワード化して示す

単元計画を見ると、生徒は本時までには事実や自分の考えを付け足すと内容が深まることは学んできているので、本時は、これまで学んできたことを確認する時間として位置付けることもできた。中間指導で取り上げた生徒の表現の何が良いのか、板書にキーワードで視覚化して示すとさらに効果的である。

中間指導では汎用性のあるものを取り上げる

英語は何度も繰り返し触れなければ身に付かない。既習表現を使って言えることは、言えるように指導することが大事。中間指導で「言いたかったけど言えなかった表現」を共有するのは、誰かの疑問や質問を教材として使わせてもらって、既習表現を想起させる機会を作るため。全体に還元できるよう、汎用性のあるものを取り上げること。

語順の感覚を身に付けさせる指導を継続的に行う

中学校の教師として、生徒に英語の語順の感覚を身に付けさせることは、必ず行うこと。中間指導の場面なら、生徒が「単語」で質問したことも、全体で考えながら、最後は「文」にして解決することが大事。アクティビティーなどで楽しく取り組ませながら身に付けさせることもできる。機会を捉えて継続的に粘り強く指導していくこと。

【山田誠志教科調査官より】

- ◇外国人観光客が何を求めているか、インターネット等で情報を得て、相手意識を持たせる。
- ◇働かせたい見方・考え方を生徒に思考させて引き出す。
- ◇中間指導で意図的指名ができるように、机間指導を行う。
- ◇新しい言語材料は、先に形のみを教えるのではなく、教科書本文の内容理解等を通して、使用場面から理解を促していく。



講師
文部科学省
山田 誠志 教科調査官

参加者の声



＊ゴールで付けたい力に向かって、単元を通して意図的に指導していくことが求められていることを、改めて認識できた。

＊振り返りで生徒に気付かせたいことを明確にして、必要な指導や活動を考え、授業を組み立てているように感じた。振り返りから指導を考えていきたい。

＊中間指導では、本時のめあてや単元のねらいに立ち返って深めさせることが大切なのだわかった。生徒から引き出し、共有することを心掛けたい。

＊語順指導や、関連質問など、日頃課題だと感じていたことについてアイデアを得ることができた。楽しみながら、実際のコミュニケーションの中で学ばせることを心掛けたい。